



長野県鉱工業指数 平成28年12月分(速報)及び平成28年分(速報)をお知らせします

1 平成28年12月分(速報)

(1) 概況

平成28年12月の長野県鉱工業指数は、前月比(季節調整済指数)で、生産は1.9%と2か月連続の上昇、出荷は△0.3%と2か月ぶりの低下、在庫は△0.5%と3か月連続の低下となりました。

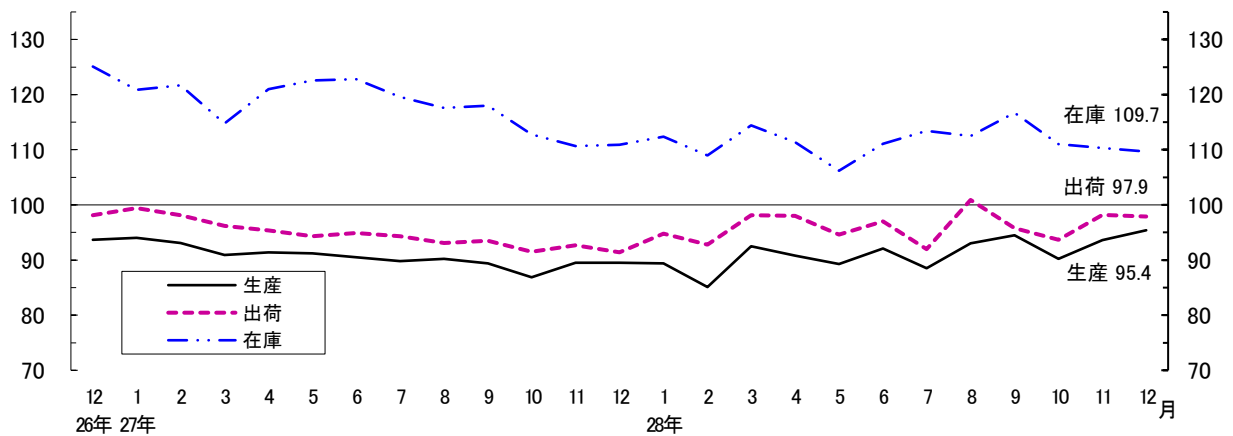
前年同月比(原指数)では、生産は5.0%と5か月連続の上昇、出荷は6.2%と5か月連続の上昇、在庫は△1.1%と17か月連続の低下となりました。

平成22年=100

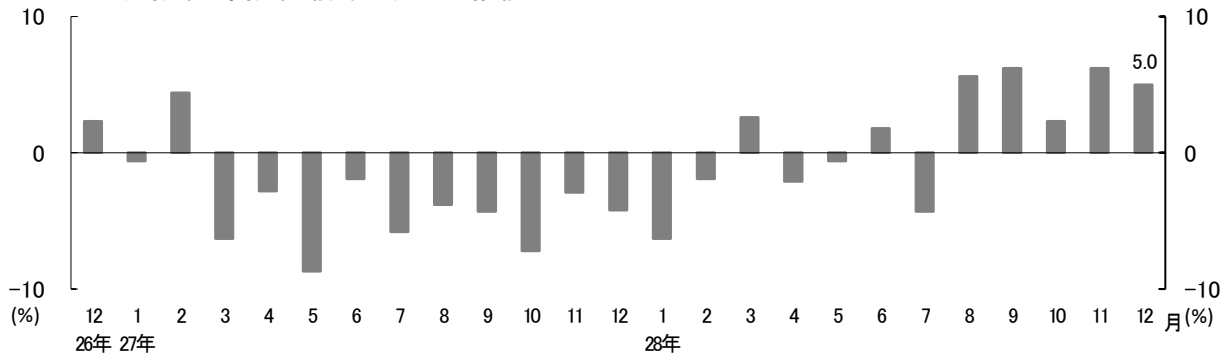
項目	季節調整済指数	前月比(%)		原指数	前年同月比(%)
		前月	前年		
生産	95.4	1.9		94.1	5.0
	(93.6)	(3.8)		(96.2)	(6.2)
出荷	97.9	△0.3		98.3	6.2
	(98.2)	(4.8)		(99.2)	(6.9)
在庫	109.7	△0.5		110.3	△1.1
	(110.3)	(△0.6)		(115.1)	(△0.3)

※()内の数値は、平成28年11月分確報値

季節調整済指数の推移



生産指数(原指数)前年同月比の推移



※1) 季節調整済指数とは、原指数を季節調整(毎年季節的に繰り返される変動を取り除くこと)した指数のことで、原指数 ÷ 季節指数により算出します。
 ※2) 原指数とは、生産等の基準数量(基準となる年の月平均の数量)に対する当月の数量の割合のことで、当月の数量 ÷ 基準数量により算出します。

オール信州で取り組む 地消○地産

「地域の消費」と「地域の生産」を結んで
地域内経済循環の輪を広げます。

しあわせ信州創造プラン(長野県総合5か年計画)推進中

企画振興部 情報政策課統計室 統計第一係
 (室長) 武井 新彦 (担当) 吉池 浩
 電話: 026-235-7070 (直通)
 026-232-0111 (代表) 内線5118
 F A X : 026-235-0517
 E-mail tokei@pref.nagano.lg.jp

(2) 生産・出荷・在庫の業種別動向

		主な業種	季節調整済指数	前月比(%)	主な品目
生産	上昇 11業種	食料品工業	108.7	6.0	飲料
		情報通信機械工業	27.7	16.4	電子計算機及び関連装置
		化学工業	79.5	15.2	医薬品
17業種	低下 6業種	はん用・生産用・業務用機械工業	122.2	△ 5.6	金属工作機械(生)
		電気機械工業	186.6	△ 1.1	
		鉄鋼業	70.3	△ 2.2	鋳鍛造品

出荷	上昇 10業種	電子部品・デバイス工業	63.8	6.5	電子部品
		食料品工業	108.9	4.9	乳製品
		電気機械工業	192.7	1.1	回転電気機械
17業種	低下 7業種	情報通信機械工業	52.5	△ 12.6	電子計算機及び関連装置
		はん用・生産用・業務用機械工業	126.3	△ 3.1	
		その他工業	92.1	△ 1.4	その他の製品工業

在庫	上昇 8業種	情報通信機械工業	135.5	5.8	
		その他工業	101.7	4.5	その他の製品工業
		金属製品工業	116.1	3.4	その他の金属製品
16業種	低下 8業種	電子部品・デバイス工業	156.2	△ 9.1	
		電気機械工業	82.3	△ 7.0	
		窯業・土石製品工業	95.9	△ 6.4	

※「主な業種」については、寄与度(全体に与える影響)の大きいものを掲載してあります。

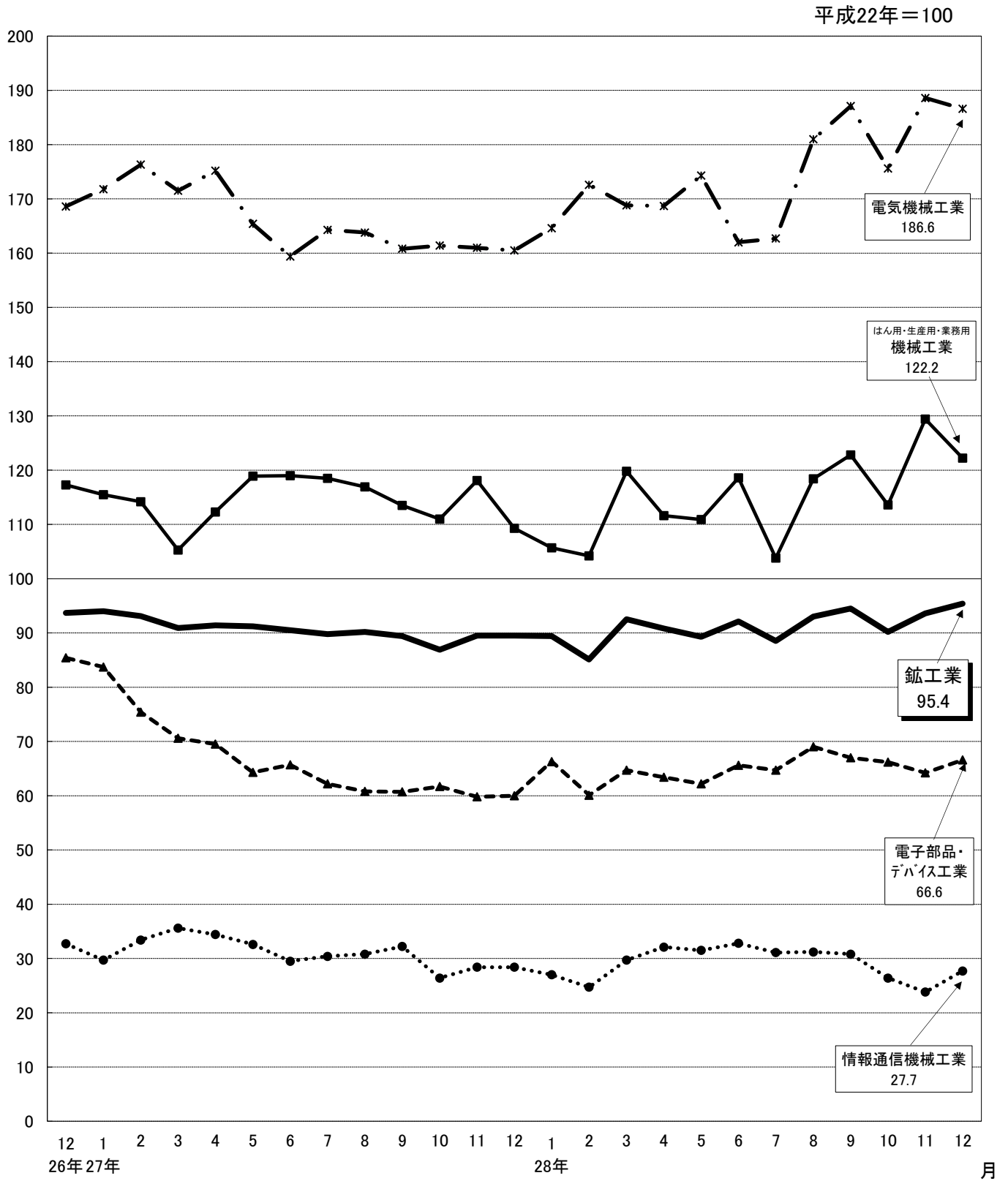
※「主な品目」については、対象事業所が少数の場合は掲載していません。

※前月比が横ばいの業種は業種数に含まれません。

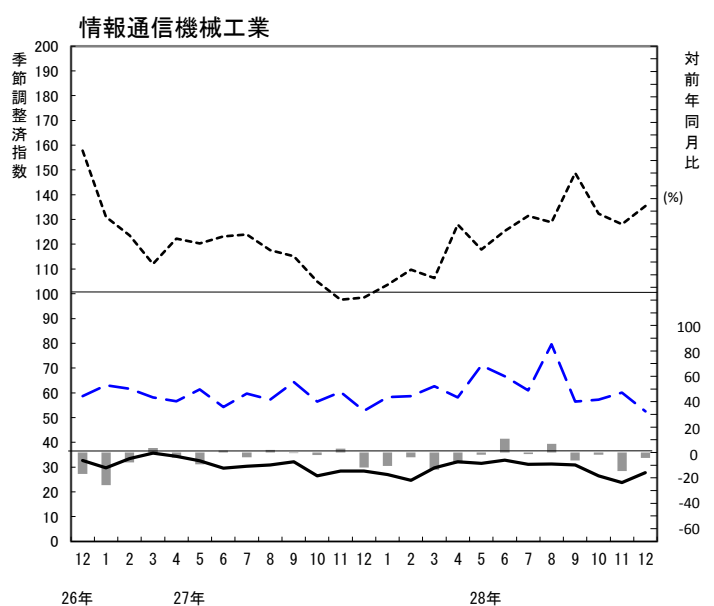
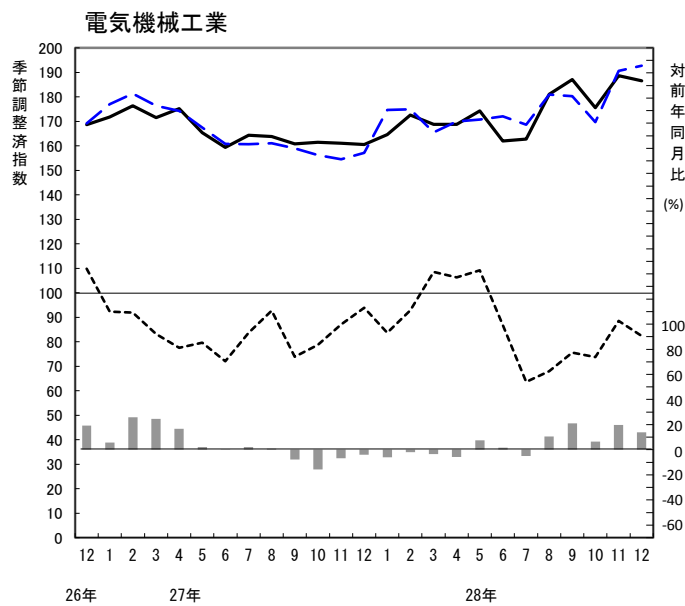
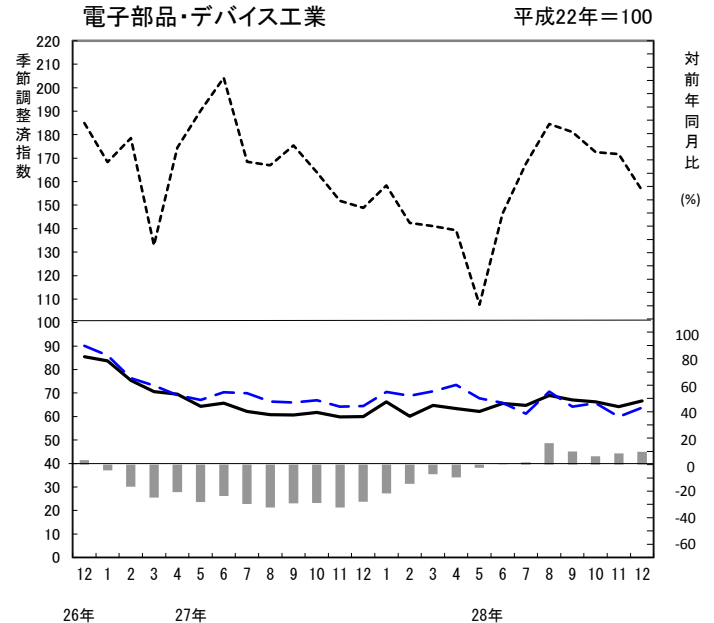
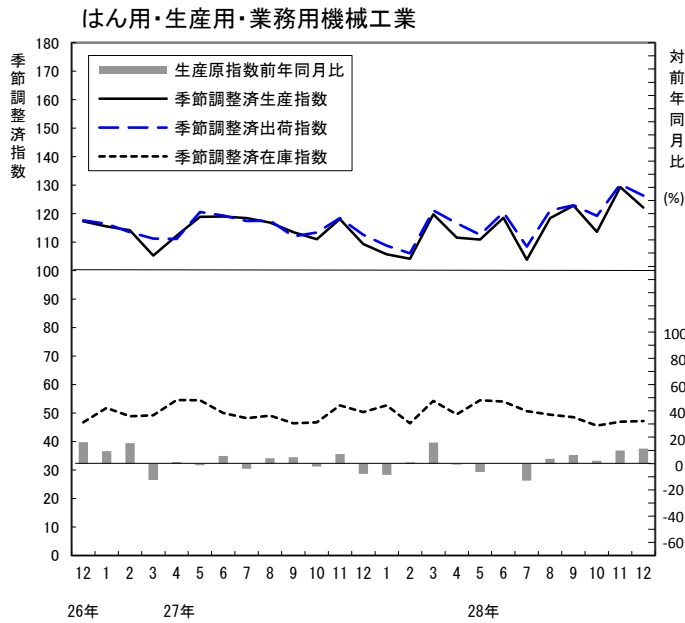
※「はん用・生産用・業務用機械工業」に係る、「主な品目」の()内は次の区分によります。

(は):はん用機械 (生):生産用機械 (業):業務用機械

(3) 主な業種の生産指数(季節調整済指数)の推移



(4) 主な業種の生産指数等の推移



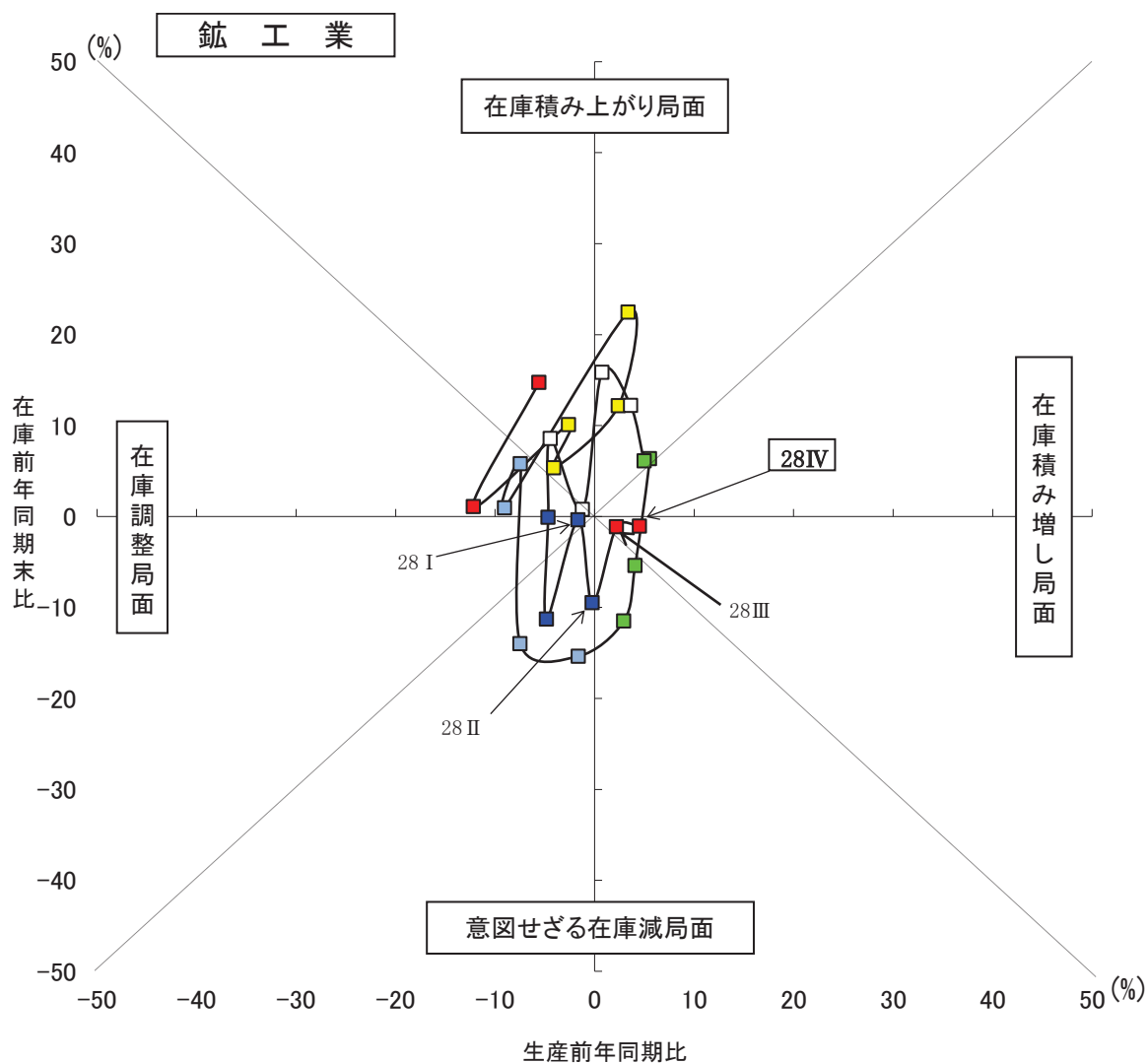
(5) 財別の動き(季節調整済指数)

平成22年=100

項目	最終需要財		投資財		消費財		生産財	
	指数	前月比(%)	指数	前月比(%)	指数	前月比(%)	指数	前月比(%)
生産	96.1 (94.9)	1.3 (4.2)	107.0 (109.6)	△ 2.4 (13.0)	85.3 (80.6)	5.8 (△ 7.4)	94.1 (91.8)	2.5 (3.3)
出荷	102.9 (106.6)	△ 3.5 (7.4)	110.9 (118.2)	△ 6.2 (11.0)	96.2 (95.9)	0.3 (0.5)	92.7 (89.8)	3.2 (2.9)
在庫	109.0 (108.0)	0.9 (0.8)	81.3 (77.7)	4.6 (△ 3.6)	121.7 (123.0)	△ 1.1 (2.0)	110.1 (113.4)	△ 2.9 (△ 2.3)

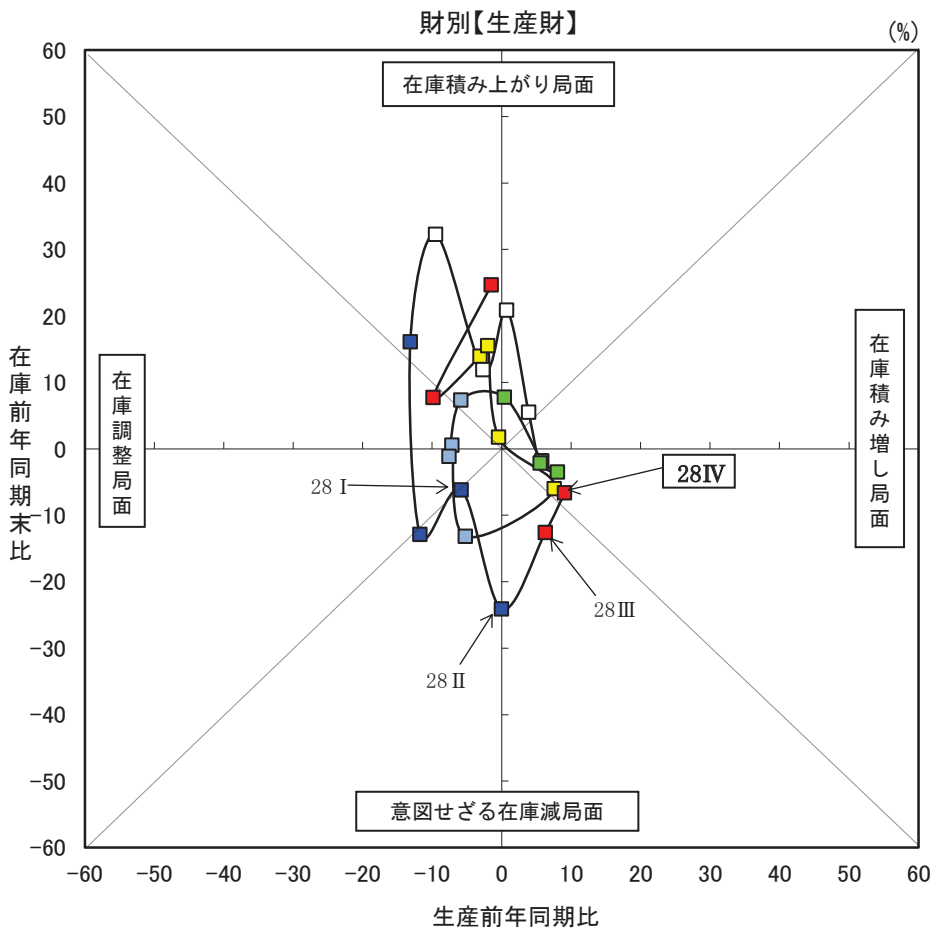
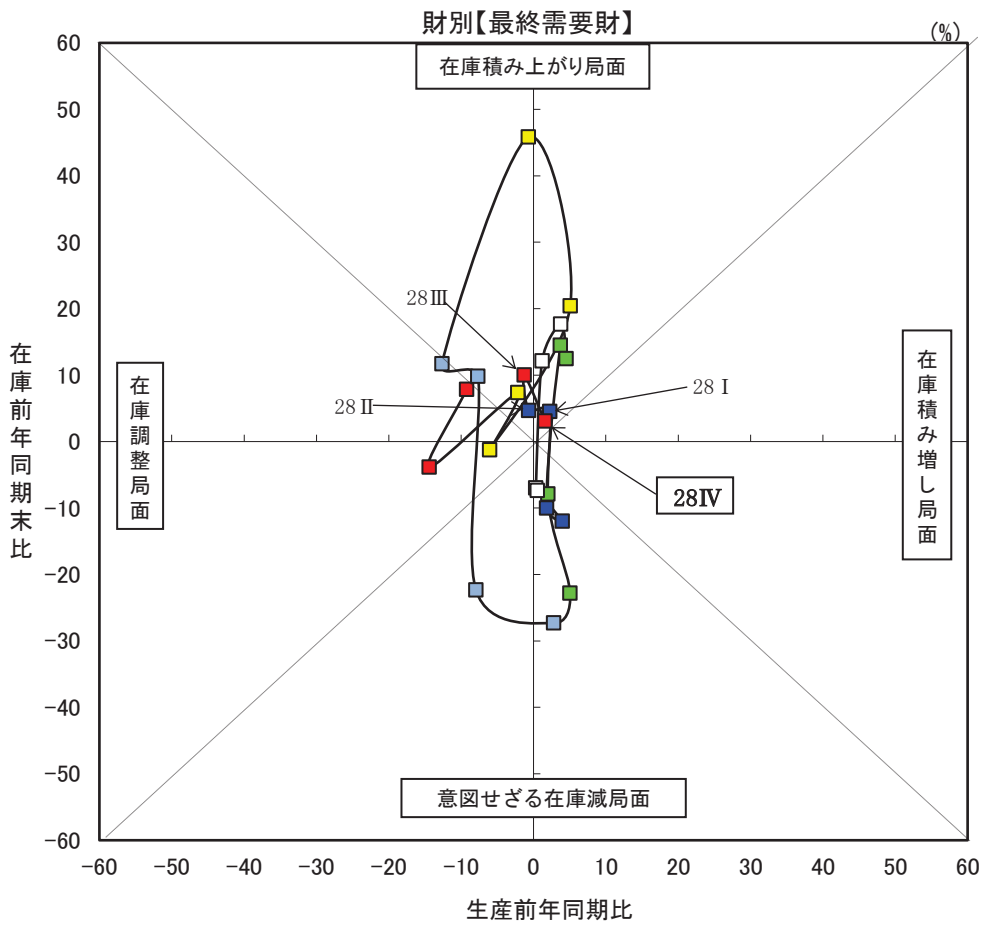
※()内の数値は、平成28年11月分確報値

(6) 在庫循環の推移(H23年 I 期～H28年IV期)



*局面の見方 (生産と在庫について以下のような循環が見られることが多い)

- ・意図せざる在庫減局面(第一局面)・・・需要が予測を上回り、一時的に在庫が減少する。
- ・在庫積み増し局面(第二局面)・・・将来の需要増に備え増産し、在庫を積極的に積み増そうとする。
- ・在庫積み上がり局面(第三局面)・・・需要が予測を下回り、在庫が積み上がってしまう。
- ・在庫調整局面(第四局面)・・・減産を進め、積み上がった在庫を減らそうとする。



2 平成28年分(速報)

(1) 季節調整済指数の動向(平成28年・四半期ごと)

季節調整済指数の四半期ごとの動きをみると、

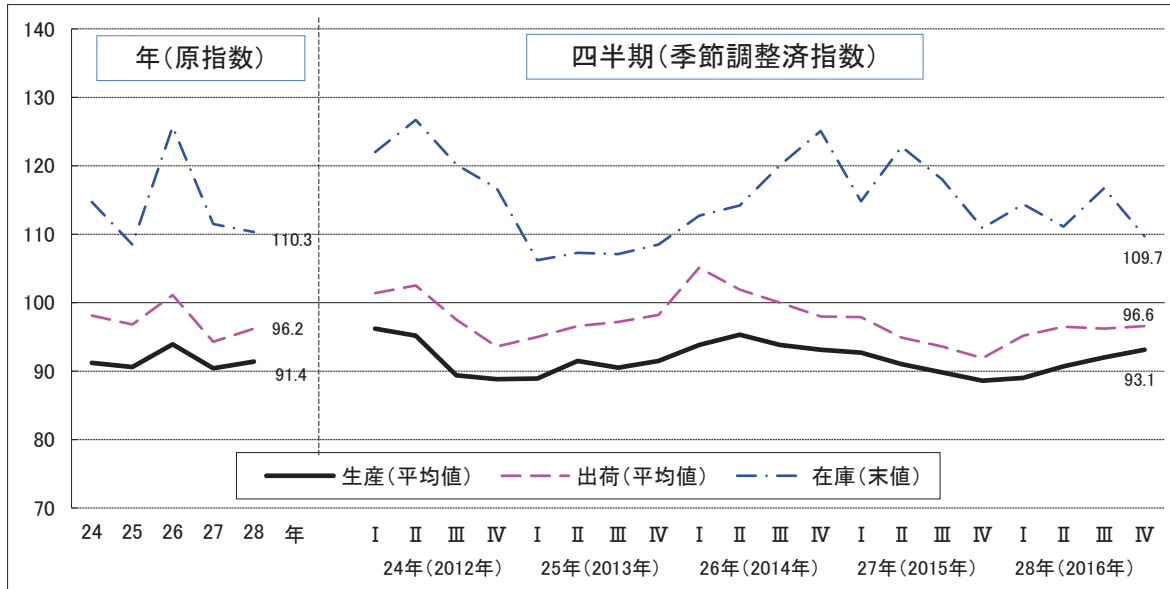
○生産は、第I四半期から連続して上昇

○出荷は、第I、第II四半期と連続で上昇し、第III四半期に低下、第IV四半期に上昇

○在庫は、第I四半期に上昇して以降、期ごとに低下と上昇を繰り返している。

鉱工業指数の推移(年・四半期)

平成22年(2010年)=100



(2) 原指数の動向(平成28年・年間平均)

原指数の年間平均は、前年比で、生産は1.1%と2年ぶりの上昇、出荷は2.0%と2年ぶりの上昇、在庫は△1.1%と2年連続の低下となりました。

年次別鉱工業指数(原指数)

平成22年(2010年)=100

年次	生産		出荷		在庫	
	年平均	前年比(%)	年平均	前年比(%)	年末値	前年比(%)
24	91.2	△ 2.9	98.1	△ 0.3	114.7	5.8
25	90.6	△ 0.7	96.8	△ 1.3	108.5	△ 5.4
26	93.9	3.6	101.1	4.4	125.7	15.9
27	90.4	△ 3.7	94.3	△ 6.7	111.5	△ 11.3
28	91.4	1.1	96.2	2.0	110.3	△ 1.1

(注)平成28年の数値は速報値であり、今後年間補正等により修正されることがあります。

(3) 生産・出荷・在庫の動向

生産指数(原指数)は、91.4で前年比1.1%と2年ぶりの上昇

電気機械工業4.5%、食料品工業2.6%、はん用・生産用・業務用機械工業1.7%など 11業種が上昇し、化学工業△16.0%、情報通信機械工業△4.6%、電子部品・デバイス工業△1.1%など 6業種が低下しました。

出荷指数(原指数)は、96.2で前年比2.0%と2年ぶりの上昇

電気機械工業5.7%、はん用・生産用・業務用機械工業3.1%、食料品工業2.7%など 12業種が上昇し、電子部品・デバイス工業△4.2%、化学工業△5.7%、輸送機械工業△1.8%など 5業種が低下しました。

在庫指数(原指数・年末値)は、110.3で前年末比△1.1%と2年連続の低下

紙・紙加工品工業△51.4%、食料品工業△7.9%、電気機械工業△12.4%など 7業種が低下し、情報通信機械工業37.5%、電子部品・デバイス工業4.9%、その他工業7.7%など 9業種が上昇しました。

生産指数

項目	業種数	主な業種	前年比(%)	主な品目
上昇	11	電気機械工業	4.5	電気計測器 飲料
		食料品工業	2.6	
		はん用・生産用・業務用機械工業	1.7	
低下	6	化学工業	△ 16.0	医薬品
		情報通信機械工業	△ 4.6	電子計算機及び関連装置
		電子部品・デバイス工業	△ 1.1	電子部品

出荷指数

項目	業種数	主な業種	前年比(%)	主な品目
上昇	12	電気機械工業	5.7	電気計測器 飲料
		はん用・生産用・業務用機械工業	3.1	
		食料品工業	2.7	
低下	5	電子部品・デバイス工業	△ 4.2	半導体素子
		化学工業	△ 5.7	医薬品
		輸送機械工業	△ 1.8	自動車部品

在庫指数

項目	業種数	主な業種	前年末比(%)	主な品目
上昇	9	情報通信機械工業	37.5	家具工業
		電子部品・デバイス工業	4.9	
		その他工業	7.7	
低下	7	紙・紙加工品工業	△ 51.4	味そ・しょう油
		食料品工業	△ 7.9	
		電気機械工業	△ 12.4	

※「主な業種・品目」については、寄与度(全体に与える影響)の大きいものを掲載してあります。

※「主な品目」については、対象事業所数が少数の場合は掲載していません。

※前月比が横ばいの業種は業種数に含みません。

※「はん用・生産用・業務用機械工業」に係る、「主な品目」の()内は次の区分によります。

(は):はん用機械 (生):生産用機械 (業):業務用機械